世界に希望を生み出そう

竹田　浩富 会長

例会場　富嶽温泉　花の湯　　例会日　毎週金曜日　月の最終週は夜間
事務所　〒418-0003 静岡県富士宮市ひばりが丘８０５　富嶽温泉 花の湯内　公式ＨＰ http://fujinomiya-west-rc.com/
TEL 0544-23-2122　FAX 0544-23-2122　Mail　fujinomiyawestrotary@mountain.ocn.ne.jp

No.12 通算 1543 号　2023 年 10 月 6 日(金)

ゲストビジターの紹介

講演者　井上徹也様・奥様
聴講者　市議会議員　岩村えみ様
　　前市議会議員　深澤竜介様
　　岳南朝日新聞社（＊取材）

会 長 挨 拶　　会 長 ： 竹田 浩富

本日の企画は広報委員会の担当で、井上徹也様から「B29 が墜落した日」と題する講演をおこなっていただきます。富士宮の上空で B29 爆撃機が墜落したのは第二次世界大戦終戦の年、昭和２０年の１月２７日のことでした。当時の市民はいきなり墜ちてきた B29 の機体と搭乗員の遺体に戦争を身近なものとして感じたものと思われます。それから７０年の時間がたち、この事件の記憶は風化しています。井上さんはこの事件を通して戦争というものの悲惨さは語り継がなければならないとして活動を続けていらっしゃるということです。後に謹んでお話を拝聴したいと思います。

さて、今日は建設業にとっての 2024 年問題の話をします、建設業にとっての 2024 年問題とは、猶予されていた時間外労働上限規制が適用された後、従業員に今までのような長時間労働させることができなくなり、労働力が不足することから業務遂行が困難になる問題を指します。具体的には、

１．時間外労働の上限規制　２．災害の復旧や復興の事業を除き、上限規制が全て適用される　３．人手不足　４．長時間労働　５．IT ツールをうまく活用していない　ということです。

建設業の 2024 年問題への有効な対応方法として、

１．職場環境を改善する
２．労務管理を適正化する
３．生産性を向上させる
４．労働時間管理に IT ツールを活用する

などがあります。でも、いままでの建設業界を本当に替えることは難しい。皆さんの業種も 2024 年問題を迎える方もいるかもしれません。もうすでに取り組んでいる方もいるかもしれません。これから働きたくても働けない時代になっていきます、どうか良い方法等がありましたら教えていただきたいと思います。

もうひとつ、今月は米山月間です。日本のロータリーの創始者米山梅吉翁の遺徳をしのびつつ、米山翁が後世に遺した留学生への奨学金支援の事業の意味を学ぶことが求められます。

幹 事 報 告　　幹 事　伊原 謙治　君

＊別紙幹事報告参照
＊本日は例会終了後月初の定例理事役員会があります。
＊11 月 8 日に「課題本贈呈式」を市役所で行います。できるだけ多くの会員の参加をお願いします。
＊11 月はロータリー財団月間で一人 120＄の寄付を募ります。１＄149 円のレートですので 18,000 円です。

出 席 報 告

	会員数	計算会員数	出席	欠席	MU	比率
今 週	21	21	16	6	0	84. 1%

☆は出席免除者／敬称略
欠席者：☆外木規之　仲亀秀樹　早川英寿
　　☆宇佐美量三　☆片岡博昌

本日のお祝い

〇結婚記念日
・近藤憲司君　S47. 10. 10
・渡邉奈津美君　H27. 10. 10
・後藤憲治君　S50. 10. 19

【 会報委員会 】　委員長：貫名英舜　　委　員：　後藤憲治　近藤憲司　片岡博昌　早川英寿

本日のスマイル

お店のシステムが新しくなりました…石田道彦君

10月になりました。今月もよろしく…若林眞治君

井上様、本日の講演よろしくお願いします…岡本吉彦君

本日の企画

講演「B29が墜ちてきた日」　*担当広報委員会*

TOMDACHIオペレーションFUJINOMIYA代表井上徹也様

太平洋戦争中の１９４５（昭和二十）年１月２７日に静岡県上空でアメリカ軍の爆撃機B29ウェアウルフ号が日本陸軍の戦闘機「飛燕」に撃墜され、富士宮市・富士市に墜落した。それから約７０年の時間が経過し、市内にあった慰霊のための碑も片付けられ、この史実を知らない市民が増えている。また、この戦闘で戦死したアメリカ側の遺族も少なくなる中で、この記録を現在ならびに後世にいかに伝えるかが問われている。同機はこの日飛来した同僚機74機のうちの一機としてサイパンを出発した。御前崎から静岡県内に入り、富士山を回り込んで東京にあった中島飛行機の武蔵野工場を攻撃するミッションに就いていたが、富士宮市の上空約三千メートルで撃墜された。機体は空中で破壊され、乗組員とともに富士宮市（一部富士市）の市街地１．５㌔平米に落下、　乗員１１名の内、7名が死亡。残り4名はパラシュートで緊急脱出降下して捕虜となった。この 4 人の内一人は落下の時の怪我が元で死亡。残りの 3 人は陸軍に連行され、東京渋谷の陸軍刑務所に収容された。しかし、同年の 5 月 26 日に米軍の空襲を受け、その時の建物火災が原因で全員が死亡している。

B29ウェアウルフ号と富士宮市阿幸地の墜落現場

東町大頂寺に保管されている落下物

富士宮市で死亡した 7 人の遺体は収容され、かつての旧富士宮市火葬場の周辺に仮埋葬された。戦後、この墜落について進駐軍の調査があり、富士宮市に仮埋葬された８人の遺体（下の写真）、ならびに渋谷で焼死した３人の遺体はアメリカに帰り、戦死者墓地に納められた。この B29 墜落事件の記録は、アメリカ軍の公式記録にデータとして残され、また、ウェアウルフ号乗組員の 1 人の方のおいが開設したウェブサイトを開設している。この縁で渋谷の日本陸軍施設で焼死した三人のうちの一人で副操縦士だったユージーン・レディンジャー中尉の長女ドンナ・ブロイヤーさんが 2003 年に父の戦死の跡を尋ねて来日した。妻アイリーンは高齢のため来日せず、娘に思いを託した。

（写真左）出征直前のレディンジャー中尉（右）と妻アイリーンさんの結婚式（写真右）アイリーンさん（右）と娘のドンナ・ブロイヤーさん。ドンナさんは墜落の年の三月生まれで、父の顔を見たことがない。「自分の戦後にピリオドをつけたい」との思いで三月二十七日に家族で来日。式典や墜落を目撃した市民との交流会に参加、父がパラシュートで着陸したとみられる富士市天間付近を訪れた。「富士宮市民にとっては最も戦争が身近だった事件かもしれない。親や先生から聞いたわれわれの世代がこの歴史を引き継がねば」と最後に結んだ。